

「教員養成におけるICT技術を使った食をテーマとした総合的な学習の指導設計（特別の教科 道徳）」

関谷 融

Teaching design for comprehensive learning on the theme of food using ICT technology
 ~ (Morality Period)

Toru SEKIYA

長崎県立大学国際社会学部

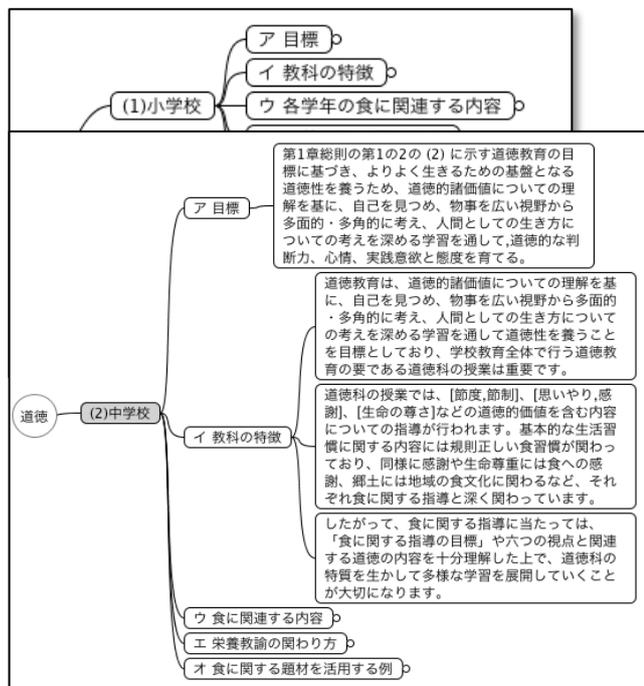
要旨 平成 29 年に改訂・告示された小・中学校の『学習指導要領』には、児童・生徒の「理解」「技能」の「構図」が示されている。
 本稿では、『学習指導要領』における「特別の教科 道徳」について、教職課程履修者自身の「総合的な学習」の指導イメージ形成と、教員として総合的な学習を指導する際に「考えるための技法」のうち「関連付ける」を可視化する方法として概念地図化を用いた学習指導を実現できるよう「総合的な学習」の具体的展開を、『食に関する指導の手引き改訂版』に即してイメージ化するための仕掛けづくりを試みた。それらの主要部分を

キーワード： 特別の教科 道徳、総合的な学習の指導方法、概念地図

1. はじめに

筆者はこれまで児童・生徒の「理解」の「構図」が示されている「学習指導要領」及びその『解説編』を、教職課程を履修する学生自身の学修、および長崎県の教員研修時の「ナビゲーター」として捉え直す方法について論じてきた。^{注1}具体的には、『学習指導要領』を概念地図に変換するコンピュータ・ソフトウェア（“Freemind”^{注2}）を使用して概念地図に変換して図的に可視化できるようにするも

のである。受講生には、この変換を通じて自分の希望する免許状教科科目の内容構造を直感的にイメージできるようになることを期待した。本稿では、特に栄養教諭免許状及び中学社会科免許城履修学生が、自身の学習ナビゲーションとして活用することを念頭に、平成 29 年 3 月に改訂された『学習指導要領』における「特別活動」について、「総合的な学習の時間」の具体的展開を、『食に関する指導の手引き改訂版』に即してイメージ化するための仕掛けづくりを試みている。



2. 『食に関する指導の手引き改訂版』における「特別の教科 道徳」の構成

01 特別の教科 道徳の全体構成

「特別の教科 道徳」は、小学校及び中学校ともに「ア 目標」「イ 教科等の特徴」「ウ 食に関する内容」「エ 栄養教諭の関わり方」の4項目で構成されている。

以下では、中学校段階についてそれらの下部構造を辿っていくことにする。※小学校は文末「補遺」へ。

02 ア目標_イ教科等の特徴

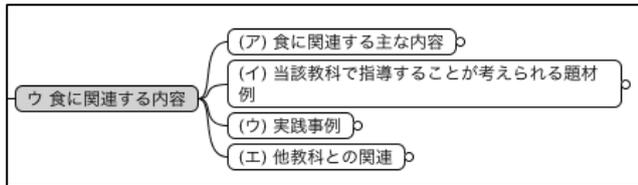
「ア 目標」の箇所では、『学習指導要領』における「特別の教科 道徳」の目的が引用されている。

ア 目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

(『学習指導要領』より)

イ 教科の特徴



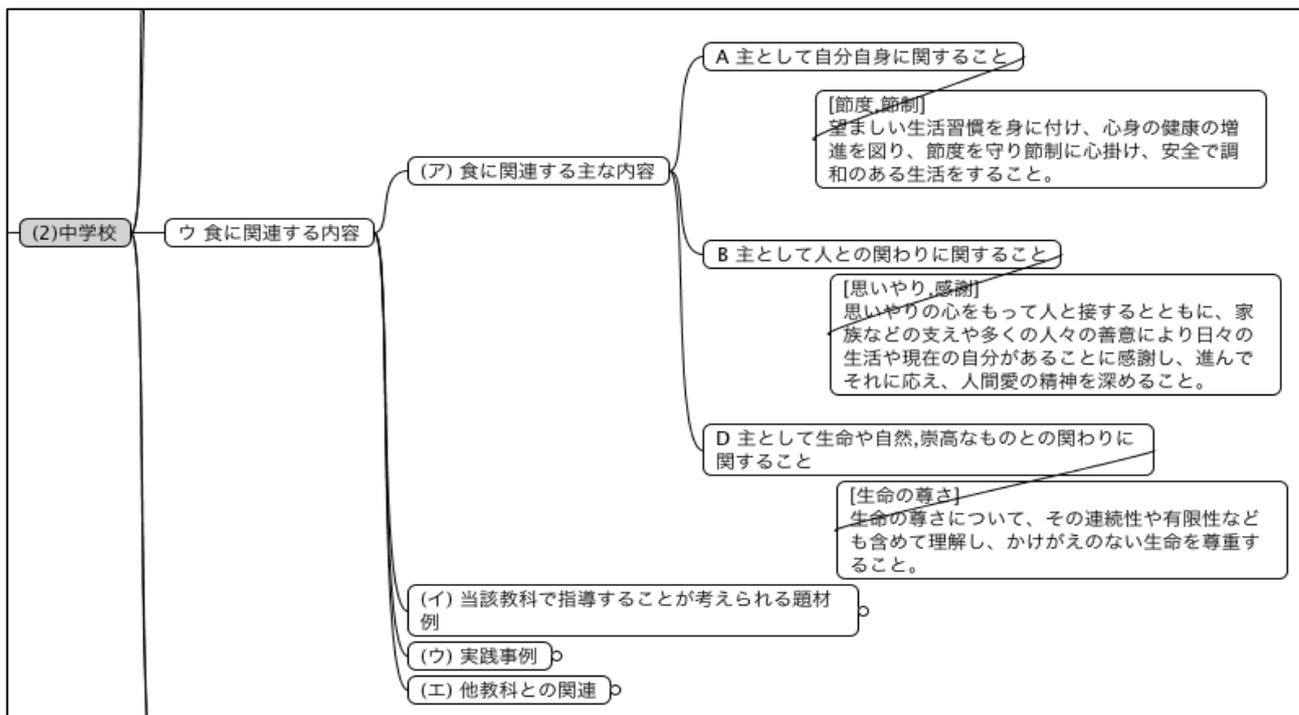
03 ウ食に関する内容

「ウ 食に関する内容」では、「(ア) 食に関連する主な内容」「(イ) 当該教科で指導することが考えられる例」(「学級活動」のみ、「(ウ) 実践事例」「(エ) 特別活動の他の内容や教科との関連」を追加)が下部構造となる。

道徳教育は、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して道徳性を養うことを目標としており、学校教育全体で行う道徳教育の要である道徳科の授業は重要です。

道徳科の授業では、[節度、節制]、[思いやり、感謝]、[生命の尊さ]などの道徳的価値を含む内容についての指導が行われます。基本的な生活習慣に関する内容には規則正しい食習慣が関わっており、同様に感謝や生命尊重には食への感謝、郷土には地域の食文化に関わるなど、それぞれ食に関する指導と深く関わっています。

したがって、食に関する指導に当たっては、「食に関する指導の目標」や六つの視点と関連する道徳の内容を十分理解した上で、道徳科の特質を生かして多様な学習を展開していくことが大切になります。

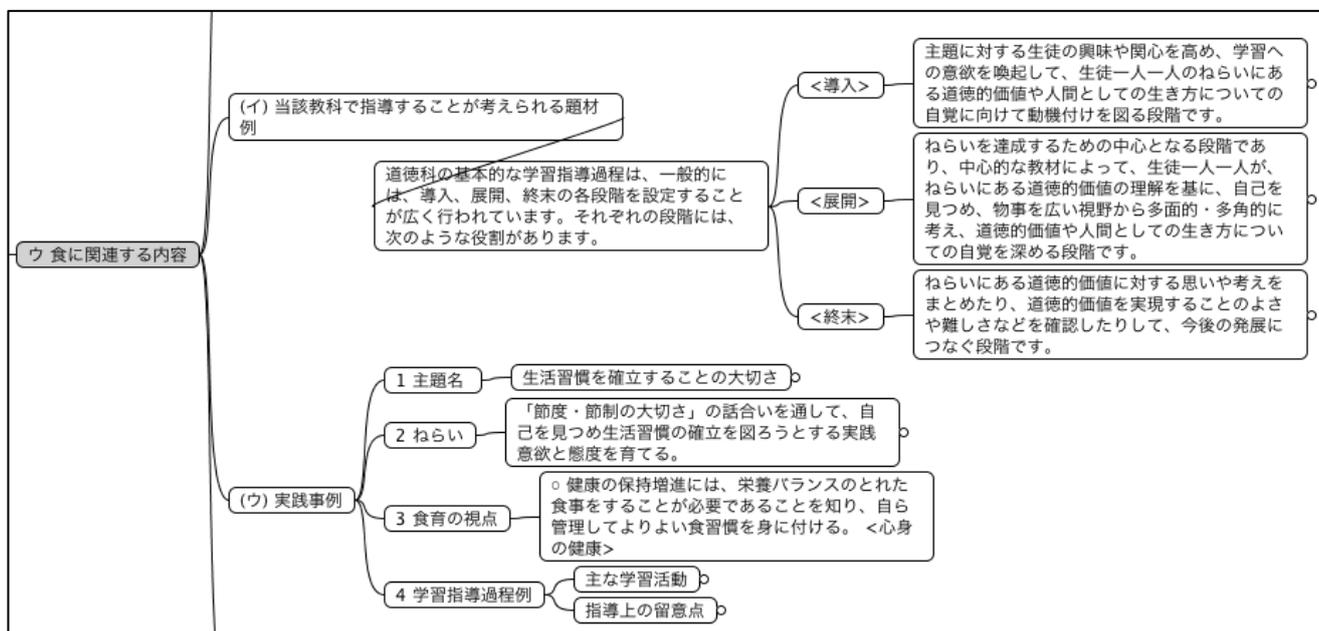


04ウ食に関する内容/(ア)食に関連する主な内容

(ア) 食に関連する主な内容

- A 主として自分自身に関すること [節度、節制]
 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をするこ
 こと。
 B 主として人との関わりに関すること [思いやり、感謝]
 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支

- えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに
 応え、人間愛の精神を深めること。
 D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関するこ
 と [生命の尊さ]
 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理
 解し、かけがえのない生命を尊重すること。



(イ) 当該教科で指導することが考えられる題材例

道徳科の基本的な学習指導過程は、一般的には、導入、展開、終末の各段階を設定することが広く行われています。それぞれの段階には、次のような役割があります。

〈導入〉

主題に対する生徒の興味や関心を高め、学習への意欲を喚起して、生徒一人一人のねらいにある道徳的価値や人間としての生き方についての自覚に向けて動機付けを図る段階です。

〈導入の段階〉

○ 自分の生活を客観的に振り返り、特に朝食の取り方や、食事内容について振り返ることで、食の大切さを考えるきっかけとなるようにします。〔A 節度、節制〕

○ これまで体験した農産物の収穫の体験などを振り返り、農産物を生産する労働について関心を向けさせ、食物が多くの人々の手によって生産されていることを意識させるようにします。〔B 思いやり、感謝〕

○ これまで体験した動物の飼育の体験や家庭で飼育しているペットなどとの関わりを振り返り、動物の生命について関心をもたせ、展開の段階につなげるようにします。〔D 生命の尊さ〕

〈展開〉

ねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な教材によって、生徒一人一人が、ねらいにある道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、道徳的価値や人間としての生き方についての自覚

を深める段階です。〈展開の段階〉

○ ある学生の

生活習慣を描いた教材などを通して話し合い、規則正しい生活習慣、生活のリズムは大切だとは分かっている、心の弱さから不規則な生活になってしまうことがあることに共感させ、自分との関わりで節度ある生活について考えさせます。〔A 節度、節制〕

○ 農作物の生産に関わる教材を通して、農業に従事する人々の仕事の様子や消費者への思いについて知り、生産者の気持ちなどについて話し合うことで、自分が毎日食事を

いただけるのは、多くの人々によって支えられていることについて考えさせます。〔B 思いやり、感謝〕

○ かわいがっていた動物を殺して郷土料理を作ることに反発しながらも、最後にはその料理を食べる登場人物の気持ちを考えさせることで、自分が生きるために、他の命をいただいているということについて深く考えさせます。〔D 生命の尊さ〕

〈終末〉

ねらいにある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階です。

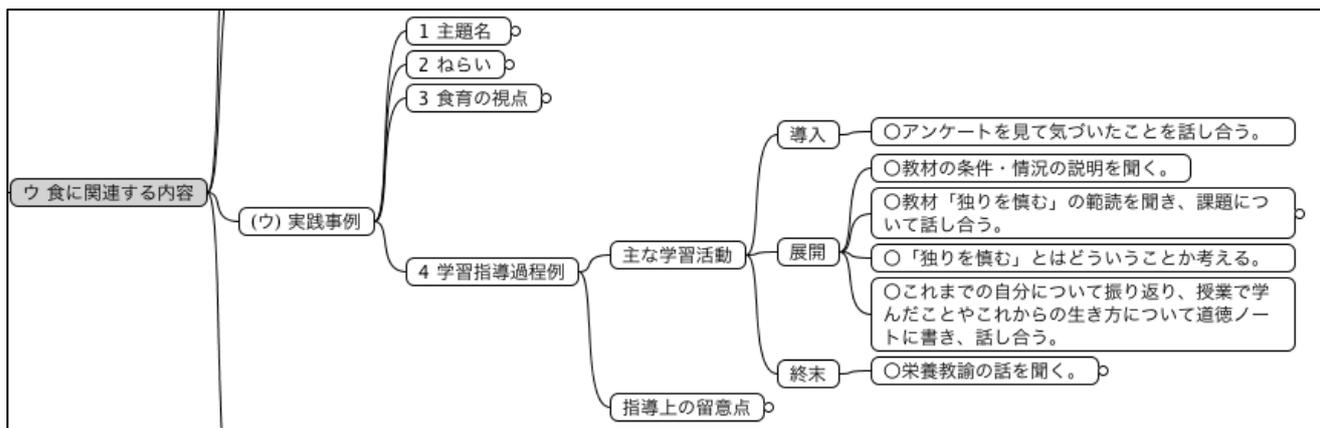
〈終末の段階〉

○ ある学生の生活習慣を描いた教材などを通して話し合った後、自分の生活を振り返る中で朝食を食べる意義を考え、自己の生活における食生活を見直す実践意欲を高めるようにします。〔A 節度、節制〕

○ 農作物の生産に関わる教材での話し合いの後、米作りや野菜作りに一生懸命に励んでいる人たちの映像を視聴し、生産に取り組んでいる人と、作り出された食物そのものにも感謝して生活しようとする心情を高めるようにします。〔B 思いやり、感謝〕

○ 人間が生きて行く上で食べるということの大切さに改めて気付かせ、食べるということは生命をいただくことであり、食生活は生命のつながりによって成り立っていることを実感させ、生命を尊重する心情や態度を育てます。〔D 生命の尊さ〕

(ウ) 実践事例



1 主題名

生活習慣を確立することの大切さ

教材名 「独りを慎む」

「コラム 健康な人間をつくることも医学の役目ではないか」

出典 「中学生の道徳『明日への扉』3年」(学研)

「私たちの道徳(中学校)」(文部科学省)

2 ねらい

「節度・節制の大切さ」の話合いを通して、自己を見つめ生活習慣の確立を図ろうとする実践意欲と態度を育てる。

中学校 A 節度、節制

3 食育の視点

06 ウ食に関する内容/(ウ)4 指導過程例/主な学習活動

4 学習指導過程例

主な学習活動

導入

○アンケートを見て気づいたことを話し合う。

展開

○教材の条件・状況の説明を聞く。

○教材「独りを慎む」の範読を聞き、課題について話し合う。

・一人暮らしを始めて、行儀が悪くなった作者についてどう思うか考える。

○健康の保持増進には、栄養バランスのとれた食事をする必要があることを知り、自ら管理してよりよい食習慣を身に付ける。〈心身の健康〉

(補助発問)一人暮らしの食事内容を見てどう思うか。

・「精神の問題だ」という作者は、どのようなことを問題にしているのかを考える。

(補助発問)だらしない生活を続けたり、だらしない食事を続けていったりしたら、どうになってしまうか。

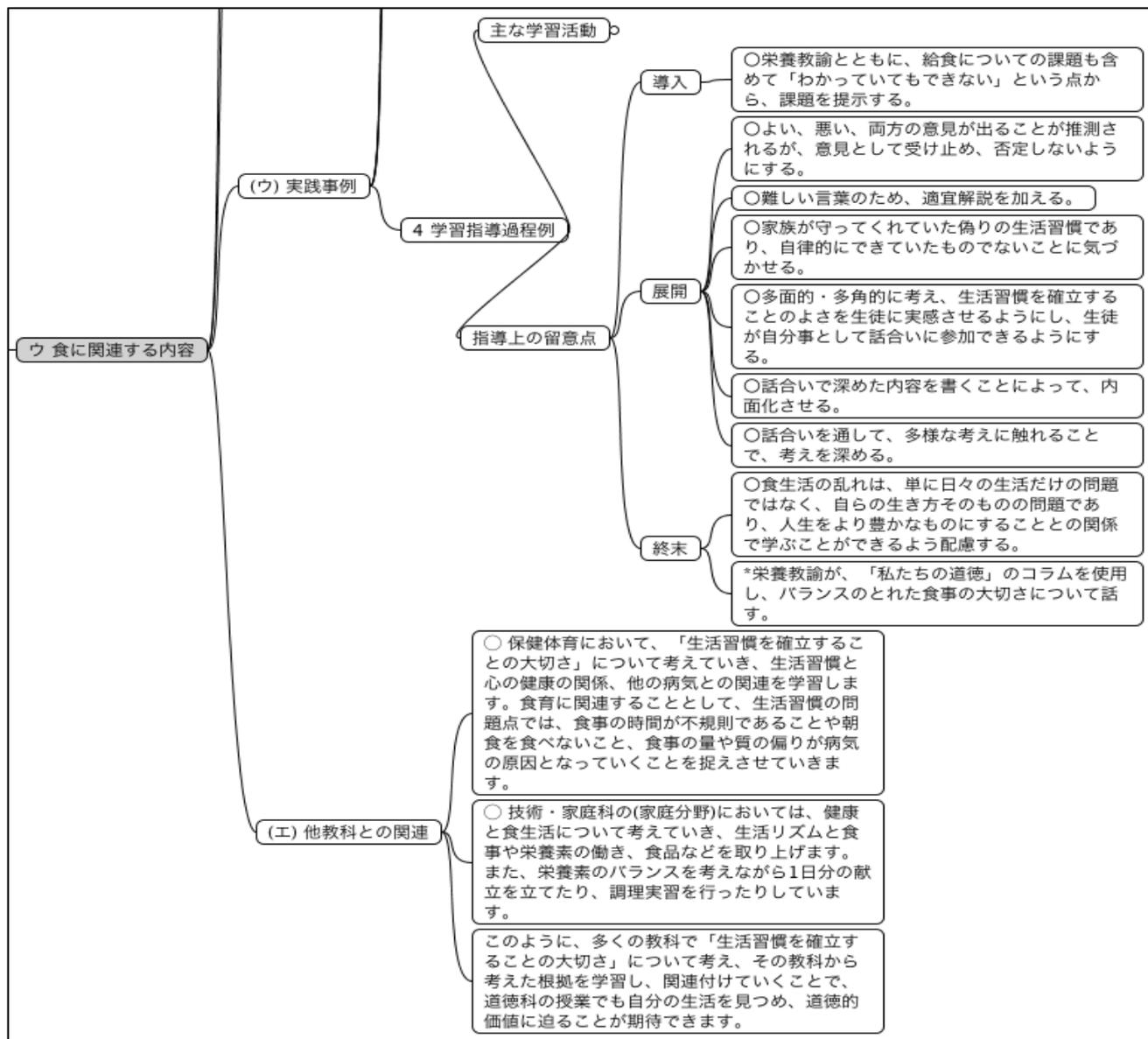
○「独りを慎む」とはどういうことか考える。

○これまでの自分について振り返り、授業で学んだことやこれからの生き方について道徳ノートに書き、話し合う。

終末

○栄養教諭の話聞く。

・生活習慣を確立することの大切さを聞く。



07 ウ食に関する内容/(ウ)4 指導過程例/留意点_エ他教科との関連

指導上の留意点

導入

○栄養教諭とともに、給食についての課題も含めて「わかっていてもできない」という点から、課題を提示する。

展開

- よい、悪い、両方の意見が出るのが推測されるが、意見として受け止め、否定しないようにする。
- 難しい言葉のため、適宜解説を加える。
- 家族が守ってくれていた偽りの生活習慣であり、自律的にできていたものでないことに気づかせる。
- 多面的・多角的に考え、生活習慣を確立することのよさを生徒に実感させるようにし、生徒が自分事として話合いに参加できるようにする。

○話し合いで深めた内容を書くことによって、内面化させる。

○話し合いを通して、多様な考えに触れることで、考えを深める。

終末

- 食生活の乱れは、単に日々の生活だけの問題ではなく、自らの生き方そのものの問題であり、人生をより豊かなものにする事との関係で学ぶことができるよう配慮する。
- *栄養教諭が、「私たちの道徳」のコラムを使用し、バランスのとれた食事の大切さについて話す。05-3 中学ウ食に関する内容ウ5エ_道徳

指導上の留意点

導入

○栄養教諭とともに、給食についての課題も含めて「わかって

ていてもできない」という点から、課題を提示する。

展開

○よい、悪い、両方の意見が出ることが推測されるが、意見として受け止め、否定しないようにする。

○難しい言葉のため、適宜解説を加える。

○家族が守ってくれていた偽りの生活習慣であり、自律的にできていたものでないことに気づかせる。

○多面的・多角的に考え、生活習慣を確立することのよさを生徒に実感させるようにし、生徒が自分事として話合いに参加できるようにする。

○話合いで深めた内容を書くことによって、内面化させる。

○話合いを通して、多様な考えに触れることで、考えを深める。

終末

○食生活の乱れは、単に日々の生活だけの問題ではなく、自らの生き方そのものの問題であり、人生をより豊かなものにする事との関係で学ぶことができるよう配慮する。

*栄養教諭が、「私たちの道徳」のコラムを使用し、バラン

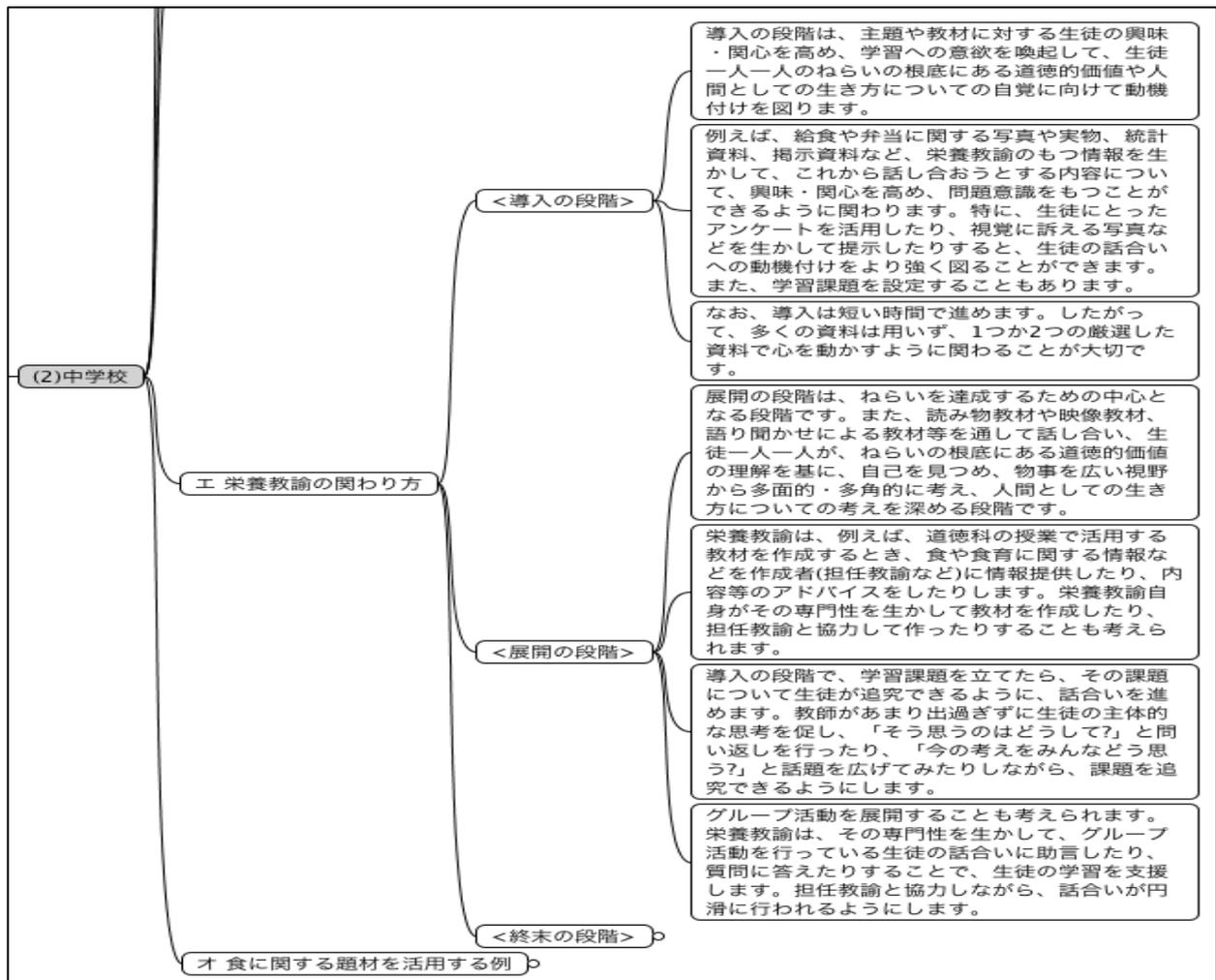
スのとれた食事の大切さについて話す。

(エ) 他教科との関連

○保健体育において、「生活習慣を確立することの大切さ」について考えていき、生活習慣と心の健康の関係、他の病気との関連を学習します。食育に関連することとして、生活習慣の問題点では、食事の時間が不規則であることや朝食を食べないこと、食事の量や質の偏りが病気の原因となっていくことを捉えさせていきます。

○技術・家庭科の(家庭分野)においては、健康と食生活について考えていき、生活リズムと食事や栄養素の働き、食品などを取り上げます。また、栄養素のバランスを考えながら1日分の献立を立てたり、調理実習を行ったりしています。

このように、多くの教科で「生活習慣を確立することの大切さ」について考え、その教科から考えた根拠を学習し、関連付けていくことで、道徳科の授業でも自分の生活を見つめ、道徳的価値に迫ることが期待できます。



08 エ栄養教諭の関わり方/導入・展開の段階

エ 栄養教諭の関わり方
<導入の段階>

導入の段階は、主題や教材に対する生徒の興味・関心を高め、学習への意欲を喚起して、生徒一人一人のねらいの根底にある道徳的価値や人間としての生き方についての自覚に向けて動機付けを図ります。

例えば、給食や弁当に関する写真や実物、統計資料、掲示資料など、栄養教諭のもつ情報を生かして、これから話し合おうとする内容について、興味・関心を高め、問題意識をもつことができるように関わります。特に、生徒にとってアンケートを活用したり、視覚に訴える写真などを生かして提示したりすると、生徒の話し合いへの動機付けをより強く図ることができます。また、学習課題を設定することもあります。

なお、導入は短い時間で進めます。したがって、多くの資料は用いず、1つか2つの厳選した資料で心を動かすように関わるのが大切です。

<展開の段階>

展開の段階は、ねらいを達成するための中心となる段階です。また、読み物教材や映像教材、語り聞かせによる教材等を通して話し合い、生徒一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める段階です。

栄養教諭は、例えば、道徳科の授業で活用する教材を作成するとき、食や食育に関する情報などを作成者(担任教諭など)に情報提供したり、内容等のアドバイスをしたりします。栄養教諭自身がその専門性を生かして教材を作成した

徒が追究できるように、話し合いを進めます。教師があまり出過ぎずに生徒の主體的な思考を促し、「そう思うのはどうして?」と問い返しを行ったり、「今の考えをみんなどう思う?」と話題を広げてみたりしながら、課題を追究できるようにします。

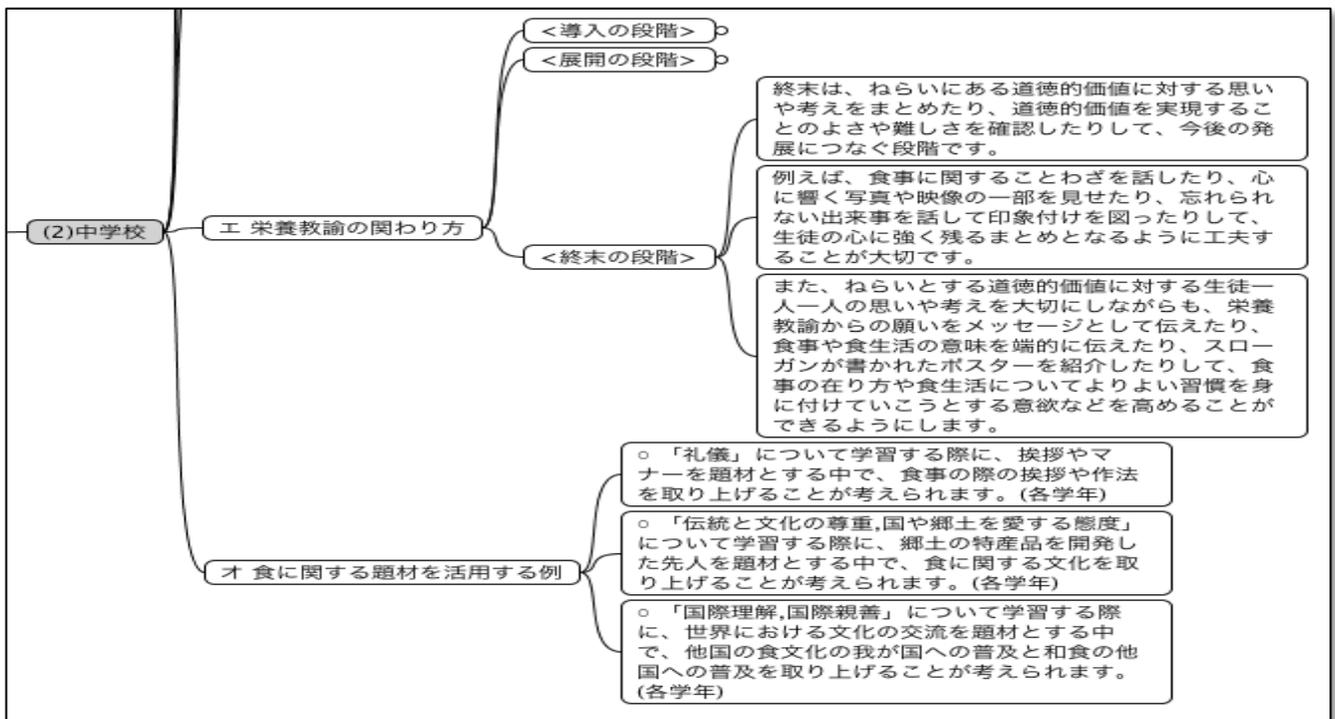
グループ活動を展開することも考えられます。栄養教諭は、その専門性を生かして、グループ活動を行っている生徒の話し合いに助言したり、質問に答えたりすることで、生徒の学習を支援します。担任教諭と協力しながら、話し合いが円滑に行われるようにします。

<終末の段階>

終末は、ねらいにある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさを確認したりして、今後の発展につなぐ段階です。

例えば、食事に関することわざを話したり、心に響く写真や映像の一部を見せたり、忘れられない出来事を話して印象付けを図ったりして、生徒の心に強く残るまとめとなるように工夫することが大切です。

また、ねらいとする道徳的価値に対する生徒一人一人の思いや考えを大切にしながらも、栄養教諭からの願いをメッセージとして伝えたり、食事や食生活の意味を端的に伝えたり、スローガンが書かれたポスターを紹介したりして、食事の在り方や食生活についてよりよい習慣を身に付けていこうとする意欲などを高めることができますようにします。



り、担任教諭と協力して作ったりすることも考えられます。導入の段階で、学習課題を立てたら、その課題について生

■研究論文

09 エ栄養教諭の関わり方/終末の段階_才題材活用例

エ 栄養教諭の関わり方

〈終末の段階〉

終末は、ねらいにある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさを確認したりして、今後の発展につなぐ段階です。

例えば、食事に関することわざを話したり、心に響く写真や映像の一部を見せたり、忘れられない出来事を話して印象付けを図ったりして、生徒の心に強く残るまとめとなるように工夫することが大切です。

また、ねらいとする道徳的価値に対する生徒一人一人の思いや考えを大切にしながらも、栄養教諭からの願いをメッセージとして伝えたり、食事や食生活の意味を端的に伝えたり、スローガンが書かれたポスターを紹介したりして、食事の在り方や食生活についてよりよい習慣を身に付けていこうとする意欲などを高めることができます。

オ 食に関する題材を活用する例

○「礼儀」について学習する際に、挨拶やマナーを題材とする中で、食事の際の挨拶や作法を取り上げることが考えられます。(各学年)

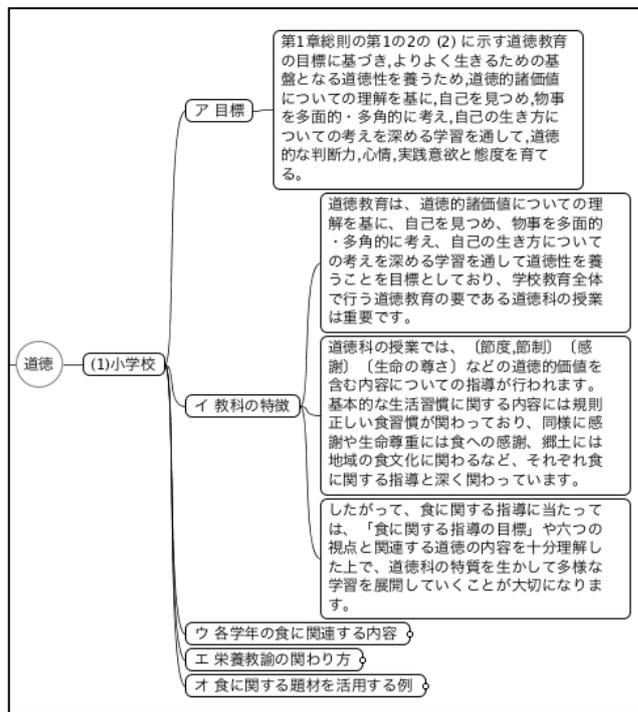
○「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」について学習する際に、郷土の特産品を開発した先人を題材とする中で、食に関する文化を取り上げることが考えられます。(各学年)

○「国際理解、国際親善」について学習する際に、世界における文化の交流を題材とする中で、他国の食文化の我が国への普及と和食の他国への普及を取り上げることが考えられます。(各学年)

3. おわりに

「はじめに」でも述べたように、本稿は直接には栄養教諭免許状履修者にとっての「総合的な学習の時間」の指導法に関わるものであるが、他の免許状（本学では、中学社会科、高校公民科及び養護教諭）履修者が「総合的な学習の時間」「総合的な探求の時間」の指導法を構想する際の具体的な範例として、とりわけ、いずれの教科においても、必要なことではあるがおろそかになりがちな『学習指導要領』の構造を視野に入れつつの各学校・教員が日々の教育活動を構想する際にも有効であるように思われる。

補遺 小学校



01 ア目標_イ教科等の特徴

ア 目標

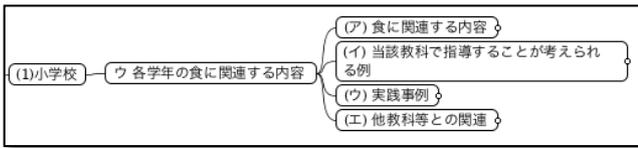
第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

イ 教科の特徴

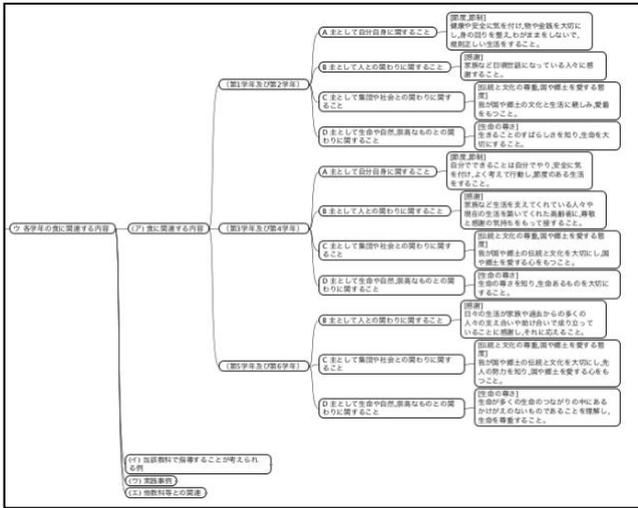
道徳教育は、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して道徳性を養うことを目標としており、学校教育全体で行う道徳教育の要である道徳科の授業は重要です。

道徳科の授業では、〔節度、節制〕〔感謝〕〔生命の尊さ〕などの道徳的価値を含む内容についての指導が行われます。基本的な生活習慣に関する内容には規則正しい食習慣が関わっており、同様に感謝や生命尊重には食への感謝、郷土には地域の食文化に関わるなど、それぞれ食に関する指導と深く関わっています。

したがって、食に関する指導に当たっては、「食に関する指導の目標」や六つの視点と関連する道徳の内容を十分理解した上で、道徳科の特質を生かして多様な学習を展開していくことが大切になります。



02 ウ食に関する内容



03 ウ食に関する内容/(ア)食に関連する主な内容

ウ 各学年の食に関する内容

(ア) 食に関連する内容

〔第1学年及び第2学年〕

A 主として自分自身に関すること

〔節度, 節制〕健康や安全に気を付け, 物や金銭を大切に, 身の回りを整え, わがままをしないで, 規則正しい生活をする

B 主として人との関わりに関すること

〔感謝〕家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

〔伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度〕我が国や郷土の文化と生活に親しみ, 愛着をもつこと。

D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること

〔生命の尊さ〕生きることのすばらしさを知り, 生命を大切にすること。

〔第3学年及び第4学年〕

A 主として自分自身に関すること

〔節度, 節制〕自分でできることは自分でやり, 安全に気を付け, よく考えて行動し, 節度のある生活をする

B 主として人との関わりに関すること

〔感謝〕家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に, 尊敬と感謝の気持ちをもって

接すること。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

〔伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度〕

我が国や郷土の伝統と文化を大切に, 国や郷土を愛する心をもつこと。

D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること

〔生命の尊さ〕生命の尊さを知り, 生命あるものを大切にすること。

〔第5学年及び第6学年〕

B 主として人との関わりに関すること

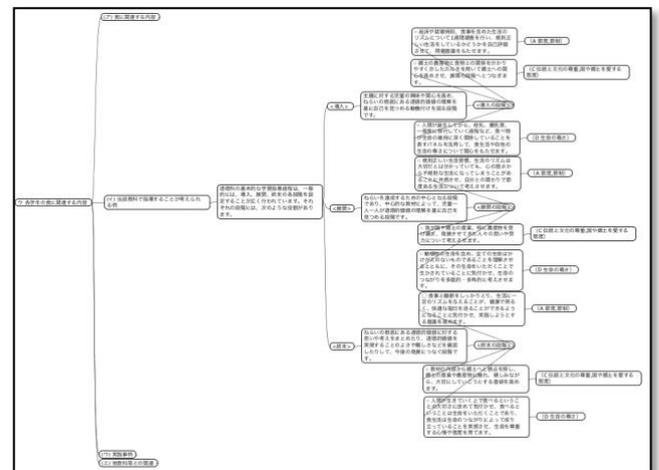
〔感謝〕日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し, それに応えること。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

〔伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度〕我が国や郷土の伝統と文化を大切に, 先人の努力を知り, 国や郷土を愛する心をもつこと。

D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること

〔生命の尊さ〕生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し, 生命を尊重すること。



04 ウ食に関する内容/(イ)題材例

(イ) 当該教科で指導することが考えられる例

道徳科の基本的な学習指導過程は、一般的には、導入、展開、終末の各段階を設定することが広く行われています。それぞれの段階には、次のような役割があります。

<導入>

主題に対する児童の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階です。

<導入の段階>

○ 起床や就寝時刻、食事を含めた生活のリズムについて1週間調査を行い、規則正しい生活をしているかどうかを自己評価させて、問題意識をもたせます。〔A 節度, 節制〕

○ 郷土の農産物と食物との関係を分かりやすく示したカルタを用いて郷土への関心を高めさせ、展開の段階へとつなぎます。〔C 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度〕

○ 人間が誕生してから、母乳、離乳食、一般食に移行していく過程など、食べ物が生命の維持に深く関係していることを表すパネルを活用して、食生活や自他の生命の尊さについて関心をもちさせます。〔D 生命の尊さ〕

〈展開〉

ねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な教材によって、児童一人一人が道徳的価値の理解を基に自己を見つめる段階です。

〈展開の段階〉

○ 規則正しい生活習慣、生活のリズムは大切だとは分かっているが、心の弱さから不規則な生活になってしまうことがあることに共感させ、自分との関わりで節度ある生活について考えさせます。〔A 節度, 節制〕

○ 我が国や郷土の産業、特に農産物を受け継ぎ、発展させてきた人々の思いや努力について考えさせます。〔C 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度〕

○ 動植物の生命を含め、全ての生命はかけがえのないものであることを理解させるとともに、その生命をいただくことで生かされていることに気付かせ、生命のつながりを多面的・多角的に考えさせます。〔D 生命の尊さ〕

〈終末〉

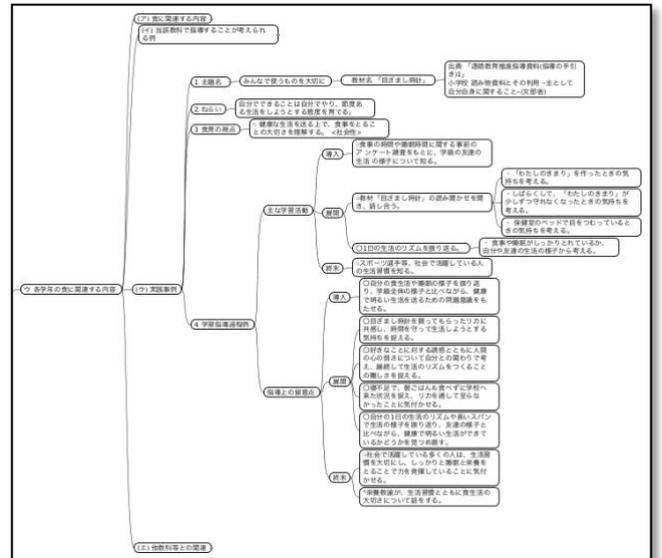
ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階です。

〈終末の段階〉

○ 食事と睡眠をしっかりと、生活に一定のリズムを与えることが、健康で明るく、快適な毎日を送ることができるようになることに気付かせ、実践しようとする意識を高めます。〔A 節度, 節制〕

○ 教材の内容から郷土へと視点を移し、郷土の産業や農産物に触れ、親しみながら、大切にしていこうとする意欲を高めます。〔C 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度〕

○ 人間が生きていく上で食べるということの大切さに改めて気付かせ、食べるということは生命をいただくことであり、食生活は生命のつながりによって成り立っていることを実感させ、生命を尊重する心情や態度を育てます。〔D 生命の尊さ〕



05 食に関する内容/(ウ)実践事例

(ウ) 実践事例

1 主題名

みんなで使うものを大切に

教材名 「目ざまし時計」

出典 「道徳教育推進指導資料(指導の手引き)1」

小学校 読み物資料とその利用 -主として自分自身に関すること-(文部省)

2 ねらい

自分でできることは自分でやり、節度ある生活をしようとする態度を育てる。

3 食育の視点

○ 健康な生活を送る上で、食事をとることの大切さを理解する。〈社会性〉

4 学習指導過程例

主な学習活動

導入

○ 食事の時間や睡眠時間に関する事前のアンケート調査をもとに、学級の友達の生活の様子について知る。

展開

○ 教材「目ざまし時計」の読み聞かせを聞き、話し合う。

- ・「わたしのきまり」を作ったときの気持ちを考える。
- ・しばらくして、「わたしのきまり」が少しずつつれなくなったときの気持ちを考える。

・ 保健室のベッドで目をつむっているときの気持ちを考える。

○ 1日の生活のリズムを振り返る。

・ 食事や睡眠がしっかりとれているか、自分や友達の生活の様子から考える。

終末

○ スポーツ選手等、社会で活躍している人の生活習慣を知る。

指導上の留意点

導入

○自分の食生活や睡眠の様子を振り返り、学級全体の様子と比べながら、健康で明るい生活を送るための問題意識をもたせる。

展開

○目ざまし時計を買ってもらったリカに共感し、時間を守って生活しようとする気持ちを捉える。

○好きなことに対する誘惑とともに人間の心の弱さについて自分との関わりで考え、継続して生活のリズムをつくることの難しさを捉える。

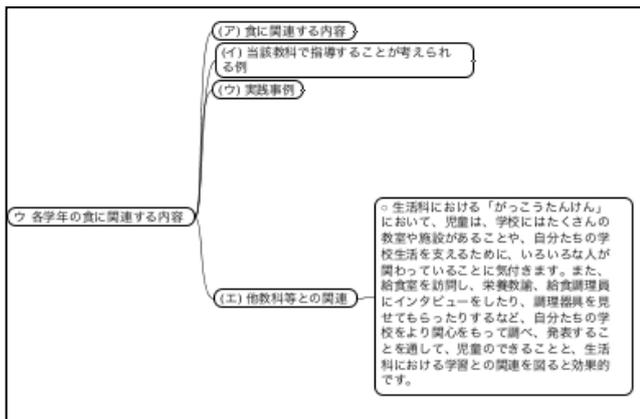
○寝不足で、朝ごはんも食べずに学校へ来た状況を捉え、リカを通して至らなかったことに気付かせる。

○自分の1日の生活のリズムや長いスパンで生活の様子を振り返り、友達の様子と比べながら、健康で明るい生活ができていのかどうかを見つめ直す。

終末

○社会で活躍している多くの人は、生活習慣を大切に、しっかりと睡眠と栄養をとることで力を発揮していることに気付かせる。

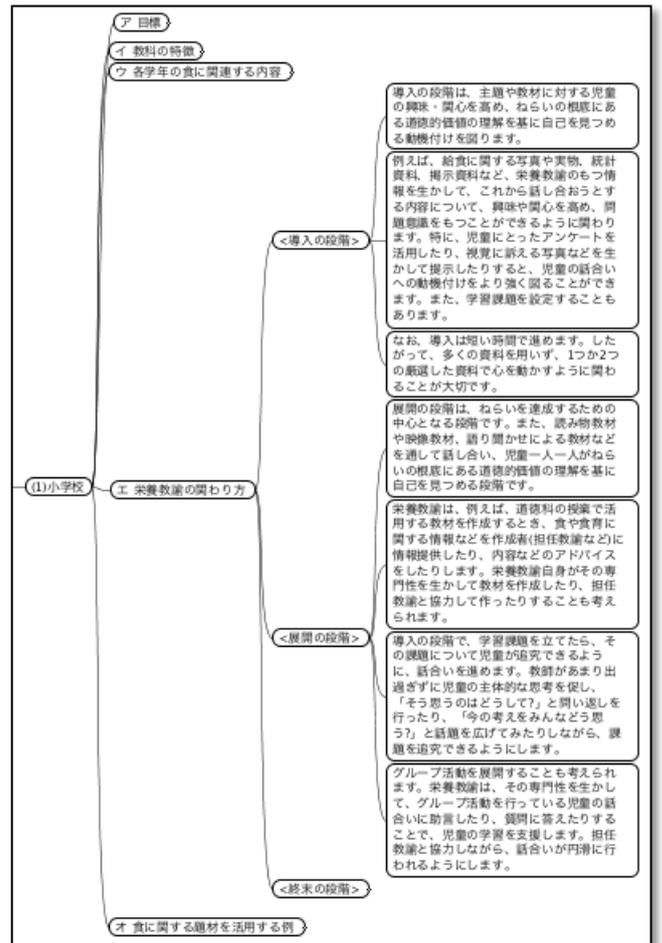
*栄養教諭が、生活習慣とともに食生活の大切さについて話をする。



06 ウ食に関する内容/エ他教科との関連

(エ) 他教科等との関連

○生活科における「がっこうたんけん」において、児童は、学校にはたくさんの教室や施設があることや、自分たちの学校生活を支えるために、いろいろな人が関わっていることに気付きます。また、給食室を訪問し、栄養教諭、給食調理員にインタビューをしたり、調理器具を見せてもらったりするなど、自分たちの学校をより関心をもって調べ、発表することを通して、児童のできることに、生活科における学習との関連を図ると効果的です。



07 エ栄養教諭の関わり方/導入・展開の段階

エ 栄養教諭の関わり方

＜導入の段階＞

導入の段階は、主題や教材に対する児童の興味・関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図ります。

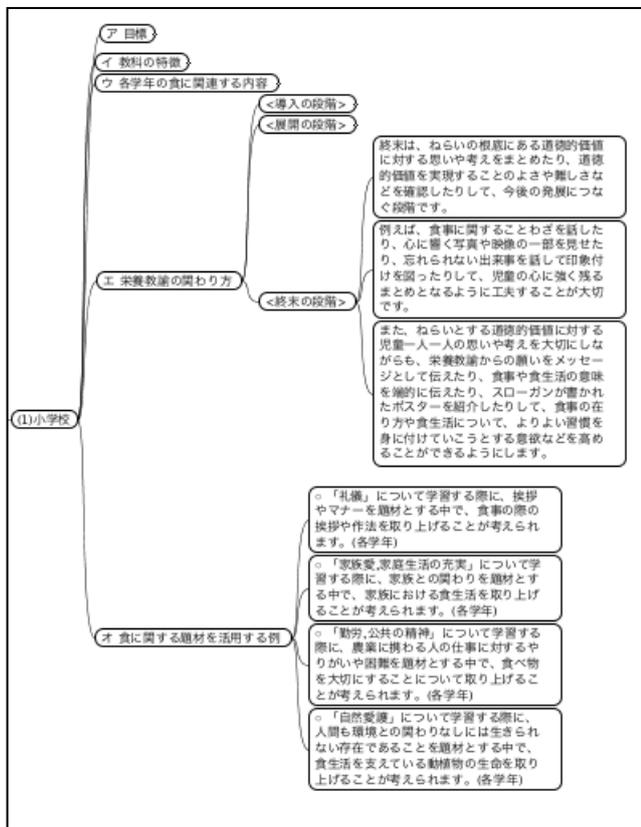
例えば、給食に関する写真や実物、統計資料、掲示資料など、栄養教諭のもつ情報を生かして、これから話し合おうとする内容について、興味や関心を高め、問題意識をもつことができるように関わります。特に、児童にとったアンケートを活用したり、視覚に訴える写真などを生かして提示したりすると、児童の話合いへの動機付けをより強く図ることができます。また、学習課題を設定することもあります。

＜展開の段階＞

展開の段階は、ねらいを達成するための中心となる段階です。また、読み物教材や映像教材、語り聞かせによる教材などを通して話し合い、児童一人一人がねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる段階です。

栄養教諭は、例えば、道徳科の授業で活用する教材を作成するとき、食や食育に関する情報などを作成者(担任教諭など)に情報提供したり、内容などのアドバイスをしたりし

ます。栄養教諭自身がその専門性を生かして教材を作成したり、担任教諭と協力して作ったりすることも考えられます。



08 エ栄養教諭の関わり方/終末の段階_オ題材活用例

＜終末の段階＞

終末は、ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階です。

例えば、食事に関することわざを話したり、心に響く写真や映像の一部を見せたり、忘れられない出来事を話して印象付けを図ったりして、児童の心に強く残るまとめとなるように工夫することが大切です。

また、ねらいとする道徳的価値に対する児童一人一人の思いや考えを大切にしながらも、栄養教諭からの願いをメッセージとして伝えたり、食事や食生活の意味を端的に伝えたり、スローガンが書かれたポスターを紹介したりして、食事の在り方や食生活について、よりよい習慣を身に付けていこうとする意欲などを高めることができます。

オ 食に関する題材を活用する例

○ 「礼儀」について学習する際に、挨拶やマナーを題材とする中で、食事の際の挨拶や作法を取り上げることが考えられます。(各学年)

○ 「家族愛, 家庭生活の充実」について学習する際に、

家族との関わりを題材とする中で、家族における食生活を取り上げることが考えられます。(各学年)

○ 「勤労, 公共の精神」について学習する際に、農業に携わる人の仕事に対するやりがいや困難を題材とする中で、食べ物を大切にすることについて取り上げることが考えられます。(各学年)

○ 「自然愛護」について学習する際に、人間も環境との関わりなしには生きられない存在であることを題材とする中で、食生活を支えている動植物の生命を取り上げることが考えられます。(各学年)

注 1

・ 中島、関谷「教員職務研修の実際：総合的な学習の時間の体制づくり」『長崎県立大学国際社会学部研究紀要』第2号、平成29(2017)年

・ 中島、関谷「特別活動の指導にあたっての教師の役割について」『長崎県立大学国際社会学部研究紀要』第2号、平成29(2017)年

・ 関谷「教職課程における学修理解を促す「構図」としての学習指導要領 - 「中学社会(地理的分野)平成29年度改訂版 - 」『長崎県立大学国際社会学部研究紀要』第3号、平成30(2018)年

・ 関谷「教職課程学修理解を促す「構図」としての学習指導要領--総合的な探求の時間-目標、各学校において定める目標及び内容」『長崎県立大学国際社会学部研究紀要』第4号、令和(2019)年

・ 関谷「教職課程学修理解を促す「構図」としての学習指導要領--総合的な探求の時間-指導計画の作成と内容の取扱い」『長崎県立大学国際社会学部研究紀要』第4号、令和(2019)年

注 2

概念地図化は、「考えるための技法」のうち「「関連付ける」を可視化する方法として、例えば、ある事柄を中央に置き、関連のある言葉を次々に書き出し、線でつないでいくという方法(いわゆるウェビング)」であり、その機能を有したコンピュータ・ソフトウェア(“Freemind”)を使用したものである。

文献

- 1) 文部科学省：『学習指導要領』平成29(2017)年
- 2) 文部科学省：『学習指導要領解説 中学校社会科編』平成29(2017)年
- 3) 文部科学省：『食に関する指導の手引第二次改訂版』平成31(2019)年